

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.1.22)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神足小学校・保育所等複合化施設	階数	地上3階建て
建設地	京都府長岡京市	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	300人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2014年11月1日
敷地面積	21,132 m ²	作成者	前田都市設計
建築面積	2,513 m ²	確認日	2014年11月1日
延床面積	5,153 m ²	確認者	(株)前田都市設計

外観/バース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 公共施設の複合化により、施設の効率的な整備・管理を目指しコスト削減に努める。又、複合化を行うことにより、当該施設の利用者間の交流による相乗効果が見込める。保育サービスの充実、児童の学びの場及び地域コミュニティの拠点施設となる、小学校・保育所の複合による新たな施設整備計画を策定した。		その他 施設の性格上、地域の拠点となるだけでなく、近隣の住民と連携した利用が可能となるように配慮した施設づくりを行った。
Q1 室内環境 ぬくもりのある仕上材等で安全で快適な居住環境の確保しつつ、利用しやすい施設をめざした。	Q2 サービス性能 施設の複合化により確保された居住性や安全性だけでなく、効率的な施設となるように努めた。	Q3 室外環境 (敷地内) 既存の環境に及ぼす影響を最小限になるよう考慮しつつ、全体として利用しやすい施設づくりを行った。
LR1 エネルギー 施設の特性を踏まえて、総合的に運用しやすい施設となるように努めた。	LR2 資源・マテリアル 公共施設として行うべき取組みを、コストや安全性が確保されている範囲で行った。	LR3 敷地外環境 複合化施設の整備に際して、今回想定しうるさまざまな項目に着目し、施設の合理化と効率の向上を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される